

嬢なり二 愛知縣下なれど場處は不明三
必ずしも讀むに及ばず、理論よりも實
行を先にせよ、讀んで益ある書と無益な
るものとあり選擇を要す『みづゑ』五十

の口繪、CHANCE の意味を問ふ(周子)
◎蒲公英の實を吹いて居る圖にて、こゝ
に現はれたる他に何の意味ありや不明
■肉筆水彩畫を借受くるに、會友規定に
五圓の擔保金を要すとあり、『みづゑ』會
告には貳圓十錢とあり、何れが信實か、こ
れは僕のみならず多くの會員諸君も迷ふ
事であらうにと思ふ、幹部諸先生の御考
いは?(北海の迷子)◎迷ふのは君たゞ一
人ならん、會告にある頑つといふ文字は
譲るといふことで、貸すといふ意味更に
なし■一、美術新報、二 日本美術、三美
術學校々友會月報の定價發行所(石川義
春)◎一は定價五錢毎月二回東京本郷湯
島切通坂上畫報社、二は二十五錢毎月一
回本郷駒込富士前町日本美術社、三は非
賣品■『みづゑ』特別號として旅行のみ
の分ありときく、何號なりや(AB生)◎
第六は『赤城の旅』、第十四及十六は『飛

驛紀行』、第三十六は『小笠原紀行』、第四
十四は『尾瀨紀行』、第六を除き他は殘本
あり

讀者の領分

■油繪用品、繪具十五色、筆三本、パレ
ットナイフ、パレット、リンシード油一
罇、パレット用油壺、スケツチ板四枚右
一二度使用したまだ新しきもの送料共金
四圓にて譲る、他に『みづゑ』五十號讓受
たし(山口縣豊浦郡勝山村楠乃石川義春)
■御芳筆を賜はりし諸兄姉よ引續き
御惠みを願ふ又昨年ハガキ文學全部水
彩畫油繪と御交換下さい(米澤市免許町
下一三〇八佐藤周子)◎このやうなのが
意味不明なり書物が入用なのか繪が入用
なのか■田舎住居の我が爲めに自筆水
彩繪葉書の交換を願ふ乍拙筆必ず返葉す
(三河國三好野々山彦三郎)■前號の
『みづゑ』を一寸、展覽會評は穩健、穂高
山紀行は快文字に繪も何れも結構あの雪
の山を見ると三伏の暑さは何處へか往つ
て仕舞ふやうだ(好畫道人)■葉書形
スケツチ箱格安に譲りたし但未使用品、

次に肉筆水彩葉書の交換を乞ふ必ず返葉
す(相州鎌倉長谷堀谷紫海生)■三脚、
水筒、油繪具及洋畫講義録一、二、四、五、
六、七號安價讓りたし(長野市花咲町齋
藤就一)■肉筆スケツチ水彩畫の交換
を乞ふ四日以内必ず返葉(横濱市西戸部
町六六五、菱沼猛)■眞面目なる肉筆
水彩葉書の交換を乞ふ(神奈川町字二ツ
谷九四四、山上義正)■大阪三越の展覽
會の廣告は夢にはあらずやと喜び見物致
候、生れて始めて諸先生の大作を拜し候
「木崎湖」の大幅、その黙して語らざる森、
死せるが如く靜まる水!浮草!神秘を小
生の胸に注入するが如く覺え候、其他大
橋先生の熟達したる穩やかなる筆、丸山
先生の剛健の繪、河合先生の『藪』これは
小生が幾度か試み幾度か失敗したるも
の、成程と合點致候赤城先生の『あらしの
後』『みづゑ』にて拜見せしが原色版その
まゝにて大に原色版の有難きを感じ申候
(向井寛三郎)■廣く肉色繪葉書の交換を
乞ふ(巖手師範、菅原藤花)■『みづゑ』に
木炭畫の傑作を出されたし(北海の讀者)